

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまでの歩みの中で培われた「柏原東高校の教育力」と「柏原地域連携型中高一貫教育」を中心とした「地域連携による教育力」の相互補完・活性化による教育活動を展開することで地域や社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から愛され、信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、自立できる生徒を育成する学校
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じて、豊かな人間性を育む学校
- 3 地域とともに歩み、地域に愛される学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態に応じた「わかる授業」を推進する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業理解度（平成 25 年度 48%）を毎年 5%以上引き上げ、平成 28 年度には 60%以上にする。

(2) 多様な進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 「B-up タイム」(Brush up タイム)を導入し、全生徒に対し「基礎知識の学び直し」を継続実施することで「学習の姿勢づくり」および就職希望者が必要とされる「基礎力の習得」を図る。

※年度末の就職内定率を毎年 100%をめざす。(H25 年度 100%)

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。

※学年毎・教科別に実態に即した講習カリキュラム・教材を作成し、組織的・体系的な講習（週 3 回）を実施することにより、平成 28 年度には個々の志望に応じた大学への合格をめざす。

ウ 放課後・土曜日を利用した「特別進学コース」を開設し、さらに高いレベルの大学進学をめざす生徒を育てる。

※週 3 回 7 限目（60 分）、土曜日（90 分×2 限）・長期休業中（85 分×4 限）の特別授業により、3 年間で 4 年分の学習量を確保する。

平成 25 年度からの継続で地元大阪教育大学や難関私立大学をめざす生徒を育て、平成 27 年度には合格を 28 年度も継続して合格をめざす。

2 豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を構築する。

ア 「熱く、厳しく、暖かく」をモットーに教職員全体制で取り組んできた「厳しく寄り添う」生徒指導を継続し、次世代へ継承していく。また、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導が行うことができるよう、教育相談体制を整備する。

※年間遅刻者総数 1,000 人以下（H25 年度 865 人）を継続し、平成 28 年度には 700 人台をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率（H25 年度 89%）を毎年引き上げ、平成 28 年度には 95%にする。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（H25 年度 52%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 28 年度には 60%以上にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率（平成 25 年度 54%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 28 年度には 65%以上にする。

※部活動加入率（平成 25 年度 38%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 28 年度には 50%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の満足度（H25 年度 65%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 28 年度には 75%以上にする。

イ 保健体育科の「少人数展開授業」の実施により、安全配慮や協調性・責任感などを醸成するとともに、その集大成といえる体育祭での「男子組体操・えっさっさ」、「女子マスゲーム・ダンス」を通じて達成感を味わい人間的な成長を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における人間成長度（H25 年度 71%）を毎年 3%以上引き上げ、平成 28 年度には 80%にする。

(3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図る。

ア 「総合的な学習の時間」と「LHR」等を連携させ、3 年間を見通したキャリア教育の指導計画を確立させる。また、地域や外部人材等を積極的に活用し、地域のニーズも取り入れながら、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。

※年度末の就職内定率を、毎年 100%をめざす（H25 年度 100%）。

イ 「総合的な学習の時間」と「LHR」等を連携させ、3 年間を見通した人権教育の指導計画を確立させる。また、人権教育推進委員会の活性化を図り、個々の生徒情報について学年および人権教育推進委員会で共有できる体制を構築する。

※生徒向け学校教育自己診断における積極的な人権学習の肯定率（H25 年度 66%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 75%にする。

3 地域連携の確立と伸張

(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の確立とさらなる進展を図る。

ア 連携授業（書写・書道）の定着を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。

※中学校生徒向け授業アンケートにおける満足度（H25 年度 87%）を毎年 2%引き上げ、平成 28 年度には 93%にする。

イ 新学習指導要領を踏まえ、学校設定科目などで連携型中高一貫教育に応じたカリキュラムについて研究を進める。

※平成 25 年度に立ち上げた P T を継続し、平成 28 年度には連携型中高一貫教育に応じたカリキュラムを編成する。

(2) 地元大学（大阪教育大学）との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。

ア 大学生や生徒間の交流の機会を拡大し、互いの資源を有効活用することにより相互メリット（Win-Win）のある連携を構築する。

※「特別進学コース」と連携・協働し、大阪教育大をめざす生徒を育成。平成 27 年度には合格、28 年度も継続合格をめざす。

イ HP や学校説明会・学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<数値 (%) は肯定的回答の割合> ①学校への満足度 H25→H26 入学してよかった… <生徒> 1 年 57%→61% △ 2 年 51%→58%△ 3 年 70%→62%▼ 入学させてよかった…	第 1 回 大阪府立柏原東高等学校 学校協議会 平成 26 年 6 月 20 日（金）13:00～15:00 ○平成 25 年度各取組み報告 ○平成 26 年度学校経営計画について ○平成 26 年度学校状況について

<保護者>1年 83%→91% △ 2年 80%→85%△ 3年 88%→88%◇

この1年で人間的に成長した…

<生徒>71%→70%▼ <保護者>81%→83%△

- ・3学年ともに約6割の生徒が学校への満足を示している。また、保護者の満足度においては、9割近くが満足している結果である。厳しい生徒指導を続けている中、生徒、保護者ともに理解を維持できている。

②授業力

自己診断アンケート H25→H26

わかりやすい授業が多い…<生徒>48%→48%◇

国・社・数・理・英：声や話し方は聞き取りやすく、
わかりやすい…71%→73%△

体・芸・家・情：指示は的確でわかりやすく、
すべきことが理解しやすい…79%→80%△

- ・「わかりやすい授業が多い」と感じる生徒が半数に至らない状況中で、直近の生徒による授業アンケート（平成26年12月実施分 H25→H26）結果から、個々の教科においては、座学科目7割、実技科目8割の生徒が授業についてわかりやすいと答えている。「B-up タイム」の定着とともに、生徒の授業理解が高まりつつあると考えられる。今後も「わかる授業」を目標に、個々の教員が授業改善に全力を尽くす努力をしたい。

③課外活動等学校生活の充実度 H25→H26

学校は楽しい…<生徒>68%→67%▼ <保護者>75%→74%▼

学校行事は楽しい…<生徒>65%→61%▼ <保護者>80%→79%▼

自分は（子どもは）学校で頑張っている…

<生徒>80%→76%▼ <保護者>93%→95%△

部活動に力を入れている…

<生徒>54%→55%△ <保護者>66%→57%▼

食堂の営業内容に満足…

<生徒>93%→92%▼ <保護者>89%→89%◇

- ・学校生活が充実している生徒、保護者は約7割を示しているが、来年度に向けて行事等の活動内容の見直しが必要である。生徒会活動では、運動部を中心に活動が盛んになってきている。（H25→H26:加入率 38%→40%）今後さらに学習、部活動ともに生徒が充実して学校生活を送れる組織づくりを考えていく必要がある。

④生徒の人権や安全確保 H25→H26

学校は生徒の安全に十分配慮している…

<生徒>73%→66%▼ <保護者>83%→82%▼

学習の努力は正当に評価されている…

<生徒>65%→67%△ <保護者>84%→87%△

学校の生徒指導方針に納得できる…

<生徒>44%→40%▼ <保護者>73%→69%▼

学校は生徒の健康状態に配慮している…

<生徒>47%→43%▼ <保護者>70%→66%▼

学校は悩みや相談に親身に応じている…

<生徒>52%→48%▼ <保護者>66%→66%◇

信頼できる先生が多い…

<生徒>47%→43%▼ <保護者>54%→53%▼

生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い…

<生徒>66%→60%▼ <保護者>85%→82%▼

- ・日頃の取組みである通学路指導等を含め、現状を検証し改善する努力が必要である。学習に対する意識と生徒指導に対する意識がやや離れている。生徒指導について、生徒が理解できるような指導、説明ができるような体制づくりが求められている。また、生徒、保護者が教員を信頼し、生徒個人の悩みの相談を受け入れ、生徒への人権意識、道徳観等の指導プランの構築が必要とされている。

⑤情報提供 H25→H26

学校は進路情報を十分に提供している…

<生徒>67%→64%▼ 1年 56%→61%△ 2年 63%→58%▼
3年 81%→73%▼

学校は子どもの進路について適切に指導している…

<保護者>72%→69%▼

学校はさまざまな情報を提供する努力をしている…

<保護者>67%→68%△

- ・本校では、3学年をとおして進路指導を計画、実施してきている。各学年別に進路 HR の他、個別の進路実現に向けて適切な情報提供を生徒、保護者に発信する努力が求められる。保護者向け「柏原東メールマガジン」の発信回数を今後も高めていくようにする。

○各種取組みについて

以上報告・説明より委員からの意見等

*勉強は雰囲気も大事で、今後も非常に楽しみな取組みです。「B-up タイム」の独立した時間を、月・木の6時間目の前に持ってきたことは、なかなか思いつかないアイデアです。

*教科全体で基礎力をつける時間の確保は困難であるが、生徒からアンケート・数値結果等で分析しているか。

*「書写・書道」については、大変ありがたい取組みと受けている。

*柏原東高校の生徒たちは、きちんとした服装でいるので、評判がすごくいいし、就職に関しても、柏原東高校はいいという評判を聞きます。

*厳しい指導に対して、反対の意見を持つ親の意識改革をしていくことが必要になってくるのではないかと考えている。

*「安全で安心な学校づくり」アンケートの結果について、「いじめ」0（ゼロ）という数字は本当か。

*「いじめ」に繋がるような兆候を学校が先に気づいて未然に対処してる。最近では「インターネット」による情報伝達スピードの速さに対処すべく、学校全体にネットワークを張って事前に発見することを重点に取り組んでいる。

*中学校では「いじめ」について、家庭訪問等で「保護者とつながる努力」、「保護者の理解を得る」ことを怠ってはならないと考えている。

*学校全体で、より前向きな学校経営を進めていただきたい。

第2回 大阪府立柏原東高等学校 学校協議会

平成26年11月29日（土）10:00～11:30

○学校経営の進捗状況について

*協議会第3回を視野に注目したいところを知りたい。

*「確かな学力」、「豊かな人間性を持つ」、「地域連携」の重点目標をしっかりと見据え、新たな方向性をさぐる。そのあたりを意識して今後の進捗を含めて見ていきたい。

○授業アンケートについて

*授業アンケートとは、学習環境をしっかりとしていこう、というのが世の中の必須になってきている。前向きに受け止めながらやっていこうという方向になっている。

*アンケート中の「生徒取組」「生徒意識」の項目が、先生方が変わることでどのように変わったか、との関連付けを時間かけてみていく必要がある。

*中学校の場合は、子どもたちの授業に対する捉え方もあり、幅広く個々に対応する授業がなかなか難しいです。

*こういう取り組みが、評価や教員の育成に生かされていかなければならないと思う。
*授業については、生徒の意見、先生の意見など互いに話し合う時間があってもいいのではないか。

○中高連携事業について

*見るからに面白いし、ぱっと見て面白い、心に残る、そういう連携を工夫してやっていくことが大切。

○各取組み全般について

*柏原東高校というのは、地元の身近な学校という存在になっている。

*高校の先生が年に1回でも中学3年生の授業に、特別授業でということ、ポンとやっていただけたら、また子どもたちの感じ方も変わってくるのかなと思う。

*最近指導が緩いのではないかと、という父兄の方もおられるので、もう少ししめたほうがいいのではないかと。

*周りにどれだけ発信できるかというのが、柏原東高校の前に進む一歩になると思う。

*学校としては全ての生徒に対して、なによりも安心で安全な環境づくりを心掛けてほしい。

第3回 大阪府立柏原東高等学校 学校協議会

平成27年2月7日（土）10:00～11:30

○確かな学力の育成

*数学・英語の習熟度別少人数展開授業において進捗・難易度の肯定率の目標は達成されている。今後、教員の異動等に影響されないシステムづくりが課題。

*授業アンケートについて

各教科テーマ（課題）を持ち授業改善に取り組んだ結果が反映されつつあるが、予習・復習の方向づけを子どもに対して指導していくことが、トータル的に授業力を上げることに繋がると考えられる。また、先生に対しての評価部分に加え生徒自らの学習行動の結果をどう捉えていくかが肝要であり、今後の改善に役立てる指標としてもらいたい。

○豊かな人間性を持つ生徒の育成

*スクールカウンセラーの積極的活用により、さまざまな課題に応じたケース対応や保護者のカウンセリングなど教育相談体制の確立・定着ができてきている。来年度以降も「高校生活支援カード」の有効活用をはじめ教員の意識改革も含

	<p>めた校内態勢の整備を期待したい。</p> <p>*遅刻・欠席者総数増の原因等の分析・検証を行い、学校全体として今後の指導、さらにはこれまでの生徒指導をベースに、生徒自らが自分を磨くシステム等、学習の定着化をさらに進める取組みが必要である。</p> <p>*国際理解教育活動を加え、近い将来に海外研修や留学を望む生徒に対応したグローバルな組織体制づくりをめざしてほしい。</p> <p>○地域連携の確立と伸長</p> <p>*オープンスクール・体験学習祭での昨年を上回る生徒・保護者の参加については学校の取組みを評価したい。</p> <p>また、教育大との連携については、物理的環境（距離が近い等）を生かし、今後さらに教育実習生・教育学科学生の学校見学、特別進学コースへの学生ボランティアによる指導の充実をはじめ、新しい連携についても積極的な取組みを望みたい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア 習熟度別・少人数展開授業の定着</p> <p>イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>(2)さらなる学力向上への取組み</p> <p>ウ 「B-up タイム」の実施により「基礎力向上」の推進</p> <p>エ 「特別進学コース」の継続実施によりさらに高いレベルの大学進学をめざす生徒の育成</p>	<p>ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、第1学年における「数学」・「英語」の習熟度別・少人数展開授業の定着を図る。</p> <p>イ・授業公開週間を定め(9～11月)、テーマを設定し、8人1グループの教員チームによる相互見学・評価を実施する。</p> <p>・生徒による授業アンケート(年2回)結果において、課題把握と分析を行い授業改善を進める。</p> <p>ウ・全学年全生徒に対し、週2回(月・木曜日/6限目15分)、英・数・国(3年:一般教養)の3教科実施する。また、基礎力診断テストによる分析を指導に反映させる。</p> <p>エ・高い進学意欲を持った生徒に対し、週3回(火・水・金)、7限目の特別授業(60分)および土曜・長期休業中特別授業(1コマ90分)を実施する。(英・数・国・理・社)</p> <p>・空き教室を利用し、自習室を設置する。</p>	<p>ア・生徒による授業アンケート、両教科の授業進度・難易度の肯定率、数学65%(平成25年度60%)、英語75%(平成25年度70%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業理解度53%(平成25年度48%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における授業理解度53%(平成25年度48%)</p> <p>エ・定期考査による定着度チェック</p> <p>・年3回の実力診断テスト(外部)による到達度チェック</p>	<p>ア・定期考査をもとにクラス編成の変更など効果的な展開を試みた。授業アンケートによる授業進度・難易度の肯定率:数学65%・英語81%</p> <p>評価指標は達成。今後さらなる工夫が求められる。(○)</p> <p>イ・9～11月に各教科ごとに7グループに分かれ【「板書の工夫」～視覚からの授業料～】をテーマに実施。生徒向け学校教育自己診断における授業理解度48%と評価指標に届かなかった。(△)参考:授業アンケート結果では、授業がわかりやすいという生徒は増えている。(H25:75%→H26:77%)</p> <p>ウ・本年度実施2年目となる全学年・全生徒・全教員によるB-upタイムを確立させた。今後継続による成果を持って来年度には検証が必要である。学校教育自己診断における授業理解度48%(△)</p> <p>エ・第1学年9名で特進クラスをスタート(現在10名)。週3回放課後(60分×1限)、土曜日(90分×2限)、長期休業中(80分×4限)実施。第2学年8名で特進クラスをスタート(現在6名)。週4回放課後(60分×2限)、土曜日(90分×2限)、長期休業中(80分×4限)実施。定期考査成績上位者にランクイン。外部実力診断テスト(H26.9実施):最上位者53位/3万5千人(英語)、146位/3万3千人(国数英)☆今の実力で具体的な目標となる国立大学(大阪教育大:教育)、滋賀大、京都教育大、兵庫教育大(◎)</p>

<p>2</p> <p>豊かな人間性を持つ生徒の育成</p>	<p>(1)「厳しく寄り添う」生徒指導の実践と継続</p> <p>ア 個に応じた支援体制の構築と規範意識の醸成</p> <p>(2)特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上</p> <p>イ 部活動の活性化に向けた取組みの推進</p> <p>(3)総合的なキャリア教育・人権教育の充実への取組み</p> <p>ウ 3年間を見通したキャリア教育指導計画・人権教育指導計画の確立と実践</p>	<p>ア・これまでの、生徒指導方針のベースを継承し、高校生活支援カードおよび府のSC・SCSV事業を活用し、個々の生徒を支援できる教育相談体制を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による登・下校指導を継続実施し、生徒の安全確保、遅刻者数の更なる減少に努める。 <p>イ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図る。(春・秋の2回実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高連携を活用した部活動交流を推進する。(技術指導・合同練習) <p>ウ・キャリア教育計画に基づいた体系的なキャリア教育の実施により、自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育指導計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育推進委員会・教育相談委員会を中心に人権教育を計画・推進する。 	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度55%(平成25年度52%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率93%(平成25年度89%) ・年間遅刻者総数800人台維持(平成25年度865人) <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率58%(平成25年度54%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率41%(平成25年度38%) <p>ウ・年度末の就職内定率、毎年100%(H25年度100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における積極的な人権学習の肯定率70%(H25年度66%) 	<p>ア・SC事業導入2年目にして、教育相談の校内体制が確立されつつある。H26年度導入された「高校生活支援カード」の活用、保健室利用計画なども今後の教育相談体制充実に向けた課題としたい。生徒向け学校教育自己診断の教育相談における満足度48%(△)、規範意識に関する項目における肯定率86%(△)、年間遅刻者総数1,026名(△)</p> <p>イ・春秋に2回、体験入部期間を実施</p> <p>バドミントン部、陸上部、男子バスケットボール部で中高連携校との合同練習を実施。生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率55%(△)、部活動加入率40%(○)</p> <p>ウ・キャリア教育計画・人権教育指導計画に基づき実践できたが、さらに生徒の人権意識の高揚、道徳観等の指導を高めていく必要がある。年度末の就職内定率100%(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断における積極的な人権学習の肯定率60%(△)</p>
<p>3</p> <p>地域連携の確立と伸張</p>	<p>(1)連携型中高一貫教育体制の確立と進展</p> <p>ア 連携授業の定着と進展</p> <p>イ 部活動や体験講座を通じた生徒交流の拡充</p> <p>ウ 連携型中高一貫教育に応じたカリキュラム編成の研究</p> <p>(2)地元大学(大阪教育大)との連携づくりを進めるとともに外部への情報発信力を強化する。</p> <p>エ 学生・生徒の交流の機会を拡げる。</p> <p>オ 中学校訪問、学校説明会の更なる充実と改善を図る。</p>	<p>ア・書写・書道の連携授業の定着・充実を進める。</p> <p>柏原市内6中学校第1学年全クラス年間5回の連携授業を実施するとともに書道体験講座(秋期)や中高連携書写・書道展を開催する。</p> <p>イ・秋期に体験講座5教科実施(理科・家庭科・書道・美術・情報)するとともに部活動交流(技術指導・合同練習)を進める。</p> <p>ウ・連携型中高一貫教育カリキュラム研究PT(教頭・首席・教務主任)により、授業研究を含め適切なカリキュラム編成について研究を進める。</p> <p>エ・大教大、教養科学生の学校見学および教育実習生の受け入れおよび部活動や「特進コース」への授業補助学生や大学での模擬授業など通じ、交流を拡大する。</p> <p>オ・中学訪問、学校説明会にかかるマーケティングチームを編成、現状など状況分析の上、効果的(選択・集中)な情報発信の強化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活発な学校HPの情報更新に努める。 	<p>ア・連携授業アンケート(中学生対象)による満足度89%以上(平成25年度87%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験講座における満足度100%(平成25年度100%) <p>イ・体験講座における満足度100%(平成25年度100%)</p> <p>ウ・平成28年度カリキュラム編成に向けた素案の策定</p> <p>エ・教養科学生学校見学、年2回(平成25年度2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特進コースへの授業補助学生拡大(H25年度数学3名) ・部活動交流(技術指導・合同練習)年1回以上 <p>オ・学校説明会年3回・参加者400人以上(平成25年度3回320人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度入試志願倍率1.12倍以上(H26年度1.11) ・保護者向けアンケートによる学校の情報発信肯定率75%以上(平成25年度67%) 	<p>ア・年間5回の連携授業(書写・書道)を実施。</p> <p>11月15日に書道体験講座実施。</p> <p>また、1月23日～25日柏原市リビエールホールで「中高連携書写・書道展」実施。連携授業アンケートによる満足度90%(◎) 体験講座における満足度100%(◎)</p> <p>イ・11月15日に「体験学習祭」として5教科実施(理科・家庭科・書道・美術・情報)。参加生徒54名 体験講座における満足度100%(◎)</p> <p>ウ・PTを立ち上げ議論しているが、素案の策定には至っていない。次年度以降、特進コースのカリキュラム編成と併せ、継続して研究していく。(△)</p> <p>エ・教育実習生2名(書道)受け入れ、教養科学生学校見学6月に2回実施(43名参加)。「特進コース」に数理科学生8名ボランティアで授業補助、3月の教育大教室の提供および「特進コース」生徒への模擬授業体験は大学とのスケジュールが合わず未実施。教育大グラウンドでの陸上部の練習を実施。</p> <p>(○)</p> <p>オ・学校説明会・オープンスクールを3回実施(10月・12月・1月)参加者353人(△)</p> <p>9つのマーケティングチーム結成、エリアごとに戦略をもち、10月～11月に120校訪問。1月50校再訪問。平成27年度入試志願倍率0.93倍(△)</p> <p>HPの更新を適宜行い、「柏原東メールマガジン」も効果的な発信ができたと考える。保護者向けアンケートによる学校の情報発信肯定率68%(△)</p>